第11回 理事会

日 時: 令和 4 年 3 月29日(火) 9:00~12:10

場 所: 学会事務局(Web会議併用)

出席者:長田会長(議長),伊藤副会長,清水副会長,末永 常務理事,秋山,池見,稲垣,太田,大沼,小俣, 北田,竹村,德永,富岡,西山,長谷川(淳),林, 升元,三好,和田各理事

野村. 齋藤各監事

欠席者:大谷,奥村,佐々木,長谷川(信),舩山 各理事

(理事25名中20名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者:熊谷(事務局)

議事内容:

- 1. 前回議事録の確認
 - ・令和4年3月2日開催の第10回理事会の議事録案に ついて承認した.
- 2. 審議事項
- 1)会員状況の確認
 - ・事務局長から3月29日時点における,4月1日の会員状況について説明があり,5名の会員の入会を承認した.
 - ・3月29日現在,正会員1,791名,学生会員41名,名 營会員54名となり,総数は1,886名であること,4 月1日には正会員5名が増員し,総数は1,891名と なることを確認した.
- 2)令和4年度事業計画案・予算案について
 - ・常務理事より、令和4年度事業計画案について説明 があり、審議の結果、これを承認した。
 - ・事務局長より、令和4年度本部収支予算案について 説明があり、審議の結果、一部軽微な修正を行った 上で、これを承認することとした。
- 3)名誉会員選考及び表彰規程の改定について
 - ・常務理事より、標記の説明があった.審議の結果、 規程の改定について承認した.
- 4) 令和4年度名誉会員・功績賞選考について
 - ・清水副会長(名誉会員・功績賞選考特別委員会長)より、審議の結果、名誉会員・功績賞選考特別委員会により選考された11名の会員に対して、令和4年度日本応用地質学会名誉会員として決議し、総会に諮ることとした。
 - ・功績賞については、名誉会員・功績賞選考特別委員 会の選考結果に基づき、該当なしとすることとした.
 - ・功績賞の表彰対象の明確化,選考に係る規則,名誉 会員選考及び表彰規程の改定等,必要な制度設計に ついて,名誉会員・功績賞選考特別委員会が総務委 員会と連携して引き続き検討を行うこととなった.
 - ・功績賞の位置づけとして、研究部会等学会における

活動に対して学会が表彰する性質とするのかについて議論する必要があるとのコメントが出された.

- 5)「地盤工学と応用地質学との協働」に関する地盤工学 会会長特別委員会へ委員の派遣について
 - ・常務理事より、標記の説明があった。審議の結果、旧委員会(地盤工学会関東支部)に派遣していた3名の委員について、新たに発足する標記委員会に引き続き派遣することを承認した。派遣に際しては、地盤工学会より正式文書の発出を要請することとなった
 - ・地盤工学会から要請のある,「地盤工学と応用地質学との協働」に関し、議論を行った。まず、地盤工学の分野では、物性論のみの議論では昨今の災害等への対応が困難となっており、構造論や時空間の概念を取り入れた応用地質学的な視点が必要との背景から要請が来ているとの認識が共有された。
 - ・地盤工学会関東支部側からは8つの提言として示されているものの、具体的な協力要請の内容が不明であることや、協力できる部分と議論が必要である部分があることなどから、地盤工学会関東支部における検討に参加していた当学会からの派遣委員により、当時の議論の内容を報告頂くよう調整することとなった。
 - ・これに先立ち、派遣委員の所属する災害地質研究部会、土木地質研究部会において、これまでなされている報告内容を共有頂くこととなった.
 - ・「協働」について、理事会の場で以下の意見が出された。
 - ・議論する前段に、当学会内にワーキンググループを 設置し協力できる部分や学会として取り組むべき内 容を議論すべきである.
 - ・学会間の調整の前に地盤工学会と当学会から参加者 を募り、「協働」の具体的内容や将来性について準 備会を組織するなどして議論を行った方が良い.
 - ・上述の活動については、令和4年度に開始される予 定の地盤工学会会長特別委員会「応用地質学と地盤 工学の協働に関する検討委員会」がスタートした状 況を見てから実施しても遅くないのではないか。
 - ・「地学」の必修化については、「地理総合」が地学の内容に近い唯一の教科となっている現状に鑑み、例えば土木学会などの大きな学会に働きかけて学習 指導要領を変えていくべきである。
 - ・「地学」に拘るのではなく、地理総合に当学会の持つ専門性をツールとして提示していく活動が重要ではないか。
- 6)「土砂災害の疑問55(仮称)」の電子出版契約について
 - ・常務理事より、審議の結果、電子配信の出版の契約

は令和4年度研究発表会よりも後の期日で取り交わすこととなった.

・稲垣理事より今後のスケジュールに関して説明があった。2022年6月上旬に書籍を出版し、総会・シンポジウムの場で販売すべく進めていること、講習会・市民向けイベントでの販売も企画していく予定であることが紹介された。

3. 本部からの報告事項

1)収支状況について

・事務局長より、令和3年度2月の本部収支予算について説明がなされた。2月単月では赤字決算となること、通期で見た場合には黒字と予想される状況が確認された。

2)令和4年度シンポジウムについて

- ・担当理事より、令和4年度シンポジウムのプログラムの更新内容が報告され、末永常務理事より、石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)への講演依頼が完了し、他学会への後援依頼も順調に進んでいるとの説明があった。
- 3)火山地域の応用地質学的諸問題に関する研究小委員会の活動継続について
 - ・担当理事より、研究小委員会は2024年5月末まで活動期間を継続すること、同委員会に新たに1名の委員が加わることが確認された。

4)個人情報保護規程に基づく監査の実施について

・7常務理事より、各支部において、個人情報の取り 扱いに関する監査報告書を提出するよう要請がなされた

5)国際委員会からの報告事項について

- ・常務理事より、KSEGからの原稿執筆依頼への対応 内容が確認された。またIAEG会長等の改選につい ては、具体的な内容について国際委員会に照会する こととなった。
- 6)国際基礎科学年(IYBSSD)への登録について
 - ・常務理事より、本学会がIYBSSD2022に登録したことを確認した。
- 7)日本ジオパーク学術支援連合会議報告について
 - ・清水副会長より、標記の説明があった。 3月15日に 開催された会議の内容を確認した.
- 8)地球・資源分野JABEE委員会運営規則について
 - ・担当理事より、標記の説明があった。地球・資源分野JABEE委員会に応用地質学教育普及委員会より委員3名、監事1名が推薦されたことの紹介があった

9)第13回防災学術連携シンポジウムについて

・常務理事より、5月9日に開催されるシンポジウム の内容について説明があった。また、稲垣理事より 日本地質学会との共同発表の経緯が紹介された.

- 10)「学術情報・コミュニケーションのアクセシビリティ に関する調査」調査結果の報告について
 - ・常務理事より、標記の説明があった。和田理事より、 ダイバーシティ推進特別委員会で本件への対応を議 論した結果、現状アクセシビリティに関して他学会 の取り組み事例は見当たらず、本学会でも個人から の申し出があれば対応することとなっているとの紹 介があった。
- 11) 選考結果について(2022年度鹿島学術振興財団助成, 令和4年度文部科学大臣表彰)
 - ・常務理事より、残念ながら、2件の応募いずれについても採択されなかったことが確認された。

12) 他学協会からの依頼

- ・常務理事より、「令和5年度春の科学技術に関する 黄綬、紫綬及び藍綬褒章受章候補者の推薦」につい て説明があり、該当が無いことが確認された.
- ・常務理事より、原子力規制庁「原子力規制人材育成事業の令和4年度公募」について説明があった。公募内容について、委員会・研究部会に周知することとなった。
- ・常務理事より,第13回日本学術振興会育志賞受賞候補者の推薦について説明があった.候補者があれば提案することとなった.
- 4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項 以下の委員会、支部、研究部会、特別委員会から報告 または資料の提出があった。

1)総務委員会

- ・常務理事より、3月23日開催の委員会議事録案が提出された
- ・現在総務委員会内協議事項として,支部運営規程の 改定,会員種別・会費に関する検討が挙げられた.

2)広報・情報委員会

・担当理事より、先端技術ワークショップ開催時のトラブルを踏まえ、WEB講習会におけるZoomの契約 形態について検討中であることが報告された.

3)国際委員会

・担当理事より、2月18日開催の委員会議事録案が提出された。

4)研究企画委員会

・担当理事より、第3回先端技術ワークショップ開催 時のトラブル対応として、3月4、5日に講演の録 画映像配信会が開催され、無事終了したことが報告 された。

5)教科書執筆特別委員会

・担当理事より、3月14日開催の委員会議事録案が提出された。

・4つのタスクを立ち上げ、6月下旬を目途に目次案 を決定し、10月中を目途に教科書の内容と出版形態 を決定することを目指し、活動を開始したことが紹 介された。